

新春記念セミナー・懇親会を開催

京都代協

NHKアナウンサー竜田理史氏が講演



安井会長

新春記念セミナーでは、最初に一同で令和6年度能登半島地震での犠牲者に黙祷を捧げ、安井会長が京都代協として当日も募金箱を設置するなど募金活動を行うことを伝え、協力を呼びかけた。



竜田氏

『命を守る言葉の呼びかけ』 自分は大丈夫というバイアスを打ち砕く 避難行動に最も繋がるのは身近な人の言葉

30年の西日本豪雨では、行政は最大級の警戒「特別警戒」を11の府県に発出し、860万人に避難を呼びかけたが実際に自治体指定の避難所に避難したのはたった0.5%だった。竜田氏は、その理由は、自分だけは大丈夫だと思いついてしまったという思い込み、正

常性バイアスにあると説明した。呼びかけの種類・タイプは①川が氾濫して避難指示が出たといった「情報」を伝える、②あなたを助けるために、③高台の息子の家に行けば孫の顔が見れるよといったその人ならではの内容まで含めた

「関心のない人を振り向かせる」の3つに分かれ、NHKアナウンサーもこれらを意識し、原稿の情報を伝えるだけでなく、時には心に届くように生の言葉、定型文でない言葉で強く避難を促す。東

日本大震災後から10年以上の研究と検討により災害の種類に応じて何百ページにわたる呼びかけ集があり、一部はネットで公開しているという。

午後6時半からの懇親会では安井会長の冒頭挨拶があり、宮本明彦理事の乾杯の発声を行い、小橋理事、榎並会長と4名の国会議員がそれぞれ来賓挨拶を行った。

明。心の平穏を保つために必要な働きであり、それがゆえにやっかいといえる正常性バイアスを『命を守る言葉の呼びかけ』で打ち砕くということを中心テーマに語った。

「関心のない人を振り向かせる」の3つに分かれ、NHKアナウンサーもこれらを意識し、原稿の情報を伝えるだけでなく、時には心に届くように生の言葉、定型文でない言葉で強く避難を促す。東

日本大震災後から10年以上の研究と検討により災害の種類に応じて何百ページにわたる呼びかけ集があり、一部はネットで公開しているという。

午後6時半からの懇親会では安井会長の冒頭挨拶があり、宮本明彦理事の乾杯の発声を行い、小橋理事、榎並会長と4名の国会議員がそれぞれ来賓挨拶を行った。



懇親会のもよう

京都代協(安井義幸会長)は1月24日午後4時から、京都市下京区のホテルグランヴィア京都で、会員ら約80名参加のもと、新春記念セミナーと新春懇親会を開催した。懇親会には来賓として損保協会近畿支部京都損保会榎並新次会長、日本代協小橋信彦地域担当理事、および前原誠司、北神圭朗、田中英之、勝目康衆議員、福山哲郎参議院議員、ならびに田中健志京都府議会議員らが出席し、本年も盛大な催しとなった。

『命を守る言葉の呼びかけ』

自分は大丈夫というバイアスを打ち砕く
避難行動に最も繋がるのは身近な人の言葉

明。心の平穏を保つために必要な働きであり、それがゆえにやっかいといえる正常性バイアスを『命を守る言葉の呼びかけ』で打ち砕くということを中心テーマに語った。

「関心のない人を振り向かせる」の3つに分かれ、NHKアナウンサーもこれらを意識し、原稿の情報を伝えるだけでなく、時には心に届くように生の言葉、定型文でない言葉で強く避難を促す。東

日本大震災後から10年以上の研究と検討により災害の種類に応じて何百ページにわたる呼びかけ集があり、一部はネットで公開しているという。

午後6時半からの懇親会では安井会長の冒頭挨拶があり、宮本明彦理事の乾杯の発声を行い、小橋理事、榎並会長と4名の国会議員がそれぞれ来賓挨拶を行った。

午後6時半からの懇親会では安井会長の冒頭挨拶があり、宮本明彦理事の乾杯の発声を行い、小橋理事、榎並会長と4名の国会議員がそれぞれ来賓挨拶を行った。